

岐阜大発VB、初の上場へ

コンティグ・アイ、環境事業加速

2011年10月期 売上高10億円見込む

【岐阜】コンティグ・アイ(岐阜市、鈴木繁三社長、058・294・8091)は、2012年に東証マザーズ上場を目指す。同社は土壌浄化など環境事業を手がける岐阜大学発ベンチャー。上場で知名度の向上と技術者の確保を図る。監査法人とは契約済みで、主幹証券は年内に決める。大型受注案件を多く抱え、上場前の2011年10月期には売上高で現在の7倍の10億円に達する見込み。実現すれば同大発ベンチャーの上場は初となる。

コンティグ・アイは微生物を使った土壌浄化技術や芝など非食料を原料とするバイオエタノール製造技術を持つ。これらの技術でダイオキシンなどに汚染された土壌の浄化を進めているほか、バイオエタノール製造プラントの販売を行っている。ただ、研究開発型企業のため、実際の業務は提携先に委託していることが多い。

同社は現在、次世代燃料のバイオブタノールを非食料から製造する技術など、新技術の研究開発を加速している。今後さらに研究開発型に特化していく考えで、「将来

を担う優秀な若手技術者を集める」(鈴木社長)必要がある。このため、上場による知名度向上が欠かせないと判断した。同社は03年設立。資本金は1300万円、従業員は12人。岐阜大の高見澤一裕応用生物科学部

教授や佐藤健工学部教授が取締役を務める。08年10月期の売上高は1億5000万円。景気後退が顕著な中でも、事業は好調で、09年10月期の売上高は、現時点ですでに1億円近くと、前年を上回る勢いだ。